

# 生態系保全に係る検討の進め方

## 1. 背景と目的

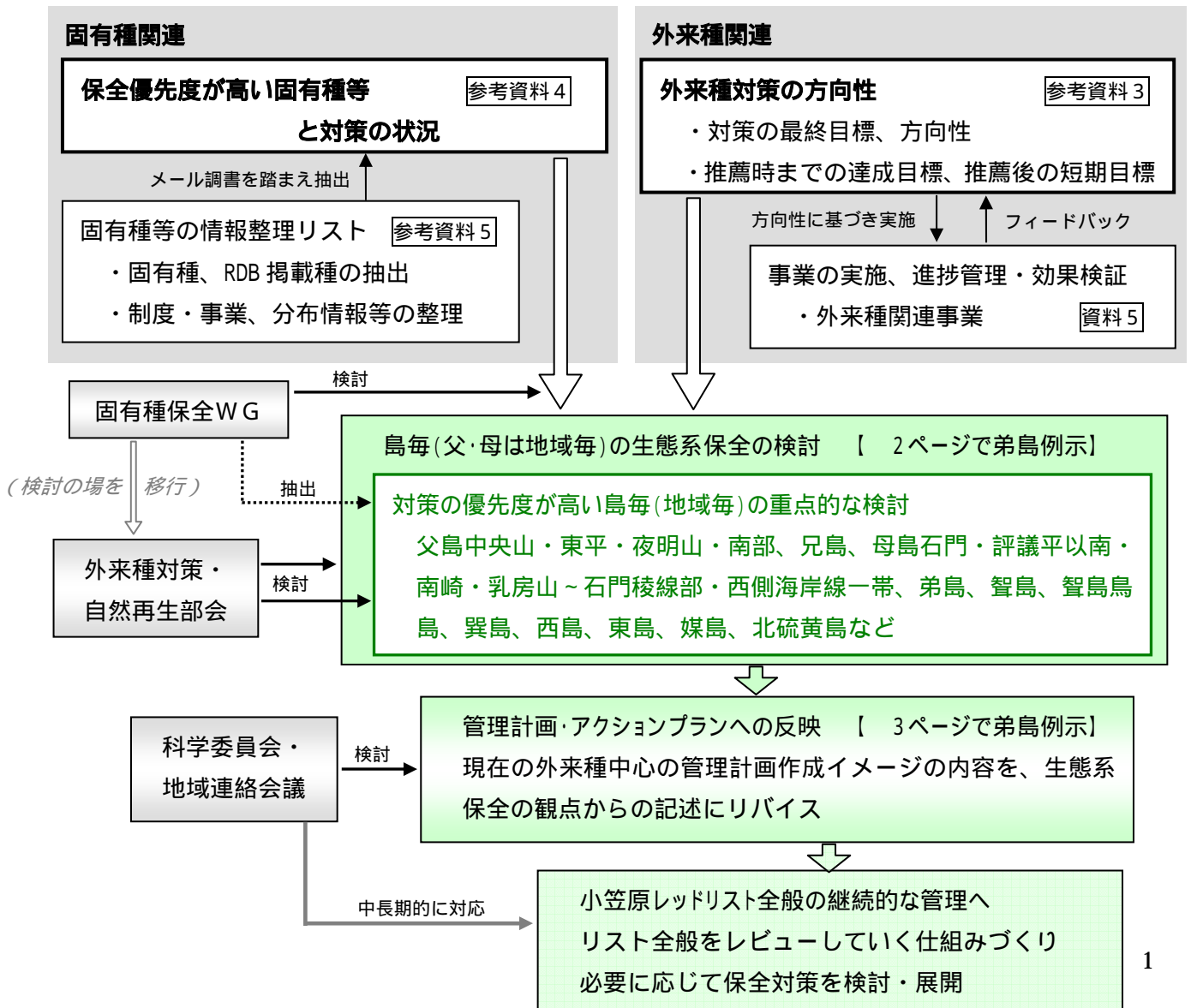
喫緊な課題である外来種対策については、これまで「小笠原の自然環境の保全と再生に関する基本計画」を踏まえて外来種毎の対策の方向性を定め、各事業主体が個別事業等を展開してきた。

今後、世界自然遺産登録に向けた管理計画・アクションプランを検討・作成していくためには、遺産地域として特に重要な価値の高い固有種及び希少種を把握した上で、島毎(父・母は地域毎)の生態系について保全目標等を設定し、固有種・外来種を総合的に捉えた生態系としての対策の方向性を明確にしていくことが必要となる。

そこで、これまで情報整理が不十分であった固有種及び希少種に関して、科学委員会委員等の専門家からのメール調書による情報収集や、その結果を踏まえた固有種保全ワーキンググループを開催(5月15日)してきたところである。[参考資料2](#)

以上のように、これまで検討・事業展開してきた外来種対策と、情報整理・検討着手した固有種の情報に基づきながら、今後は、対策の優先度が高い島(地域)での重点的な検討を進める一方で、遺産候補地すべての島毎の生態系保全の目標及び対策の方向性(中長期的含む)について検討・整理を行い、管理計画・アクションプランの検討・作成を進めていくこととする。

## 2. 生態系保全に係る検討の進め方、成果の活用



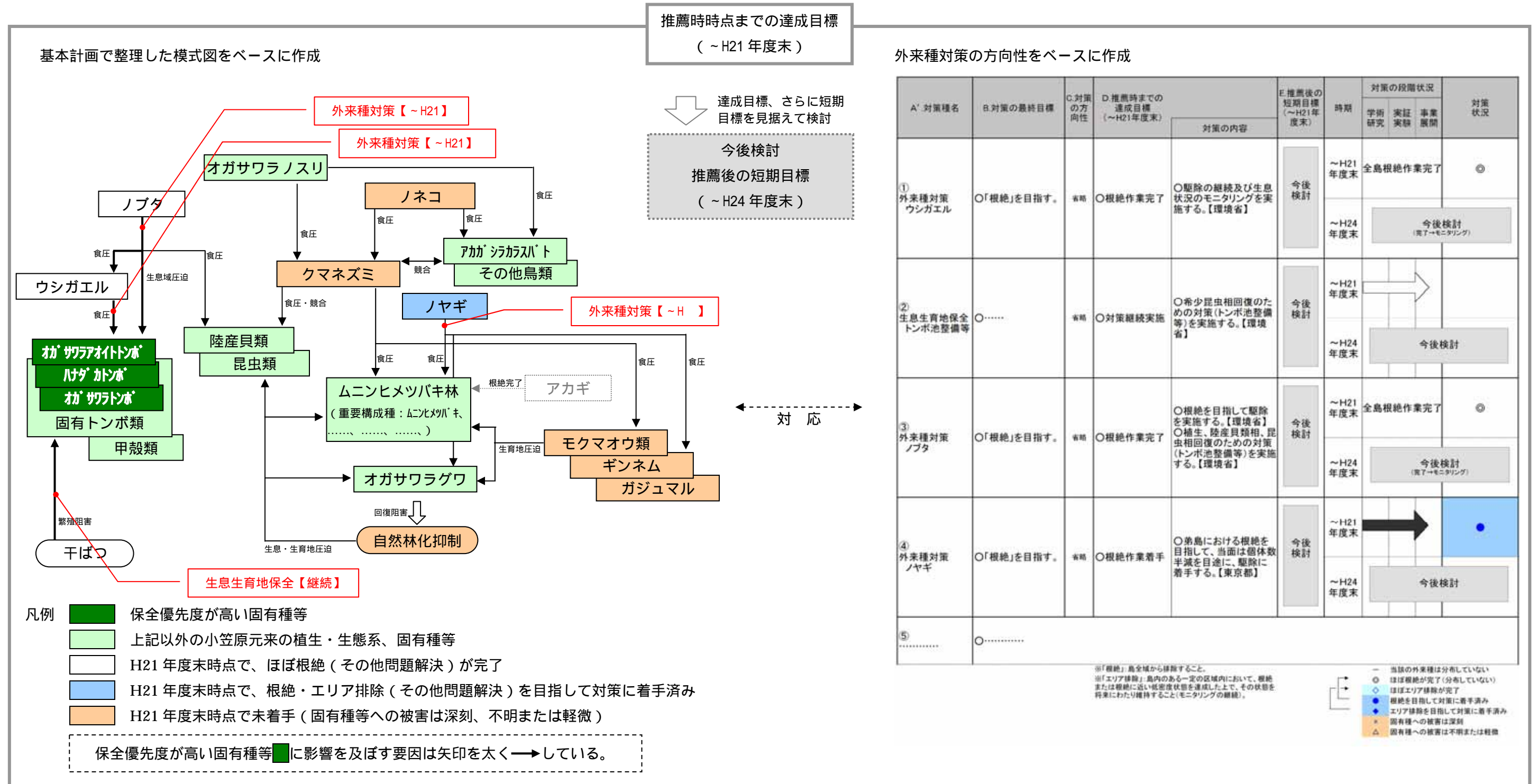
3. 科学委員会及び外来種対策・自然再生部会の役割

対策の優先度が高い島毎（地域毎）の重点的な検討（島毎の生態系保全の検討）

【外来種対策・自然再生部会での検討事項】

- ・固有種保全ワーキンググループにおける、保全優先度が高い固有種及びその対象地域の検討を踏まえ、対策の優先度が高い島（父・母は地域）の抽出（第1段階）を行った。
- ・これらの対策の優先度が高い島（父・母は地域）において、島毎・地域毎の固有種・外来種対策を総合的に捉えた島毎の生態系保全について、平成21年度末までの達成目標、さらに平成24年度までの短期目標を見据えた検討を行う。これは、今後、外来種対策・自然再生部会において重点的・先行的に検討を行い、これらの成果に基づき、次頁の「管理計画・アクションプランへの反映」の検討段階へと進んでいくこととする。

弟島でのイメージ（下記）



## 管理計画・アクションプランへの反映

### 【科学委員会・地域連絡会議での検討事項】

- ・ 前回の科学委員会で提示した「管理計画作成イメージ」では、「小笠原の自然環境の保全と再生に関する基本計画」の記述に基づき、外来種対策を中心に記述しており、固有種に関しては、「固有種の保護、生息・生育地の確保、順応的管理の実施」と一括りの記述であった。
- ・ 今後、検討・作成する「管理計画（案）」では、これら外来種対策中心の記述に関して、遺産価値の高い固有種や生態系保全といった観点からリバイスしていく。

### 弟島でのイメージ（下記）

#### 現時点（基本計画がベース）

##### 1) 現状と特性

.....（省略）.....

##### 2) 目標

###### 固有動物種の生息環境の保全と回復

.....（省略）.....

###### 自然林への正常な遷移、固有種とその生息・生育環境の回復

.....（省略）.....

##### 3) 対策の方向性

###### (1) 対策の最終目標

.....（省略）.....

###### (2) 対策の方向性

###### アカギの駆除（根絶）

ムニンヒメツバキ林の健全な回復を促すため、弟島におけるアカギの駆除を、根絶を目指して実施する。既に所在がわかっている全てのアカギを処置済みであることから、見落とししたものを探すほか、生長した稚樹の引き抜き作業を数年後に実施する。

###### その他の外来植物の駆除

ムニンヒメツバキ林の健全な回復を促すため、アカギに加えて、モクマオウ類の駆除に着手するとともに、ギンネム、ガジュマル等の駆除についても、当面実態の把握と手法の検討に努める。侵入の初期段階で広範囲に分布が拡大していないうちに、根絶を目指して、早期に駆除を開始することも検討する。また、駆除による生態系への反作用にも配慮する。

###### ウシガエルの駆除（根絶）

トンボ等水辺の昆虫相の再生のため、ウシガエルの駆除を、根絶を目指して実施する（着手済み）。現在は、ノブタの食圧に

よって個体数が抑圧されている可能性があるため、ノブタ対策より先行してウシガエルの駆除を行う。全ての生息地（池）にトラップを設置し、常時・継続的な捕獲を実施するとともに、これらの池において繁殖を阻む。

###### ノブタの駆除

ムニンヒメツバキ林と陸産貝類相の回復を促すため、根絶を目指してノブタの駆除を実施する。ウシガエルの駆除状況を見つつ、ノヤギ対策とも連携しつつ行う。追い込み捕獲、ワナ捕獲を中心にを行い、捕獲効率が高ければ、銃器の使用なども検討する。

###### ノヤギの駆除

ノヤギの駆除を根絶を目指して実施する。現在、兄島で実施されている。ノブタがいることなどオガサワラグワの生息から排除していることなど

###### ノネコ、クマネズミの駆除

アカガシラカラスバトの生息環境の回復のために、ノネコ、クマネズミの駆除について検討する。駆除にあたっては、西島やその他小規模島での実績や海外事例などを踏まえ、弟島に適した技術・手法を検証して有効性及び安全性を確保し、地域の合意を形成した上で実施する。

###### 固有種の保護、生息・生育地の確保、順応的管理の実施

既に実施されている固有トンボ類の繁殖地の創出やオガサワラグワの増殖に関する研究を元に、外来種の駆除状況を見ながら、必要に応じた固有種の生息・生育地の確保と管理等を順応的に進める。また希少な固有種の盗掘、盗採の防止のための取組を強化する。

この項目を検討

各項目出しを生態系（固有種）保全の視点での記述へとリバイス

#### 今後（管理計画案としてリバイス）

.....（省略）.....

###### (2) 対策の方向性

###### 固有トンボ等の昆虫相の回復

水辺の昆虫相の再生のため、ウシガエルの根絶を目指して駆除を行い、ほぼ根絶を達成している。今後も、常時・継続的なモニタリングを実施する。また、生息域を圧迫しているノブタについて、根絶を目指して駆除を実施する。一方で、繁殖地の干上がりにより備え、これまで実施されているトンボ類の繁殖地の創出を継続実施する。

###### ムニンヒメツバキ林の健全な回復

ムニンヒメツバキ林の健全な回復を促すため、根絶作業済みのアカギについて、見落とししたものを探すほか、生長した稚樹の引き抜き作業を数年後に実施する。植生に影響を及ぼしているノヤギについて、根絶を目指して駆除を実施する。追い込み捕獲、ワナ捕獲、銃器を用いることなどにより駆除を実施する。

その他、モクマオウ類、ギンネム、ガジュマル等などについては、当面実態の把握と手法の検討を行い、侵入の初期段階で広範囲に分布が拡大していないうちに、根絶を目指して、早期に駆除を開始することを検討する。

###### 陸産貝類相の回復

陸産貝類相に影響を及ぼしていたノブタについては、ほぼ根絶状態を達成した。今後は、生息地の確保と管理等を順応的に進める。

###### オガサワラグワの生育地の保全

ノヤギの駆除については、進捗状況に応じて、オガサワラグワの生育地など保全・再生すべきエリアを設定し、そのエリアから排除していくことを検討する。また、オガサワラグワの増殖に関する研究を元に、外来種の駆除状況を見ながら、必要に応じた生育地の確保と管理等を順応的に進める。

###### アカガシラカラスバトの生息地の保全

アカガシラカラスバトの生息環境の回復のために、ノネコ、クマネズミの駆除について検討する。駆除にあたっては、西島やその他小規模島での実績や海外事例などを踏まえ、弟島に適した技術・手法を検証して有効性及び安全性を確保し、地域の合意を形成した上で実施する。

###### その他、順応的管理の実施

必要に応じた固有種の生息・生育地の確保と管理等を順応的に進める。

.....（省略）.....